

第三者評価結果

事業所名：海老名市障害者支援センターあきば

A-1 利用者の尊重と権利擁護

A-1-(1) 自己決定の尊重	第三者評価結果
【A1】 A-1-(1)-① 利用者の自己決定を尊重した個別支援と取組を行っている。	b
<コメント>	
利用者は出勤後、自分の荷物をロッカーに片付け、班の仲間が揃うと朝礼を行っている。朝礼では午前中の活動を自分で選び、ホワイトボードの活動の場所に自分の名前の札を貼って、その日の活動を行っている。昼食後のミーティングでも、午後の活動を自分で選んでいる。重度自閉症の方たちは、構造化（生活場面において環境設定やスケジュールの提示などで何をすべきかをわかりやすく提示する方法）された環境の中で、今日一日の活動を、流れに沿って確認しながら行っている。年1回、どのような生活を送りたいか、口頭による満足度調査を行い、利用者の望む生活を確認している。また、個別支援計画作成時には、本人の思いを面接で確認し、毎日の活動に反映している。法人の理念でもある、利用者が主体となった活動を支援している。	
A-1-(2) 権利擁護	第三者評価結果
【A2】 A-1-(2)-① 利用者の権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
<コメント>	
利用者の権利擁護は、法人のマニュアルや就業規則、職員行動指針に明記し、新人職員は必ず利用者の権利擁護について学んでいる。法人に権利擁護委員会を置き、委員会が中心になり、毎年、全職員が「人権チェックリスト」に取り組んでいる。職員は、自分の支援に権利侵害がないかを振り返り、1年間の目標を立て、1年後にはその目標が達成できたか結果を記入し、委員会が集計してフィードバックしている。日頃の職員の言葉遣いなど、気になる場合は上司から注意をしたり、研修の場で話し合いを行っている。身体拘束の緊急やむを得ない場合の対応も職員に周知している。車椅子や機械浴のためのベルト使用など、家族に理由を説明して同意を得ている。また新人職員には、利用者の手は上からつかまないなど、研修を行っている。昨年度、呼称について研修を行っている。研修では、利用者との関係性が深まり、親しみを込めたつもりで「ちゃん」付けで呼んだりしてしまうことのないよう振り返りを行っている。	

A-2 生活支援

A-2-(1) 支援の基本	第三者評価結果
【A3】 A-2-(1)-① 利用者の自律・自立生活のための支援を行っている。	a
<コメント>	
利用契約後に、アセスメント表を用いて、利用者は今何ができ、何ができないか、基本的生活や生活スキル、社会スキル、コミュニケーションなどを確認して、本人ができることは自分で行うことができるよう支援している。利用者は活動を通し、今までやっていなかった掃除や身の回りの片付けなど、できるようになることも増えている。また、他の利用者との触れ合いの中で、相手への思いやりなどが多くみられるようになってきている。食事も食べにくい場合は小鉢に移して提供するなど、自分で食べることができる環境を作るよう支援している。	
【A4】 A-2-(1)-② 利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション手段の確保と必要な支援を行っている。	b
<コメント>	
会話が可能な利用者が約半数おり、言葉でのコミュニケーションが可能な方は多い。「行く」など単語だけの言葉を表出する方には、職員は前後の状況を見て、トイレに行くのか、食堂に行くのか、どこに行きたいか判断して支援するようにしている。また、ジェスチャーや写真、イラストを提示して会話をを行う方もいる。トーキングエイドを使用して職員と会話をしている方もいる。朝、昼、終礼の時のミーティングは、利用者が司会をして進行している。会話の苦手な方は挨拶だけをしてもらうなど、その方に合わせた対応をしているが、できるだけ皆の前で話す機会を作るようにしている。利用者自治会でも、利用者からの意見を聴く機会を設けている。昼食に何が食べたいか、どこに行きたいかなどの希望が出ている。以前、自治会の中で「活動中ラジカセで音楽を聴きたい」という希望が出たことがある。事業所でラジカセを購入し、現在は音楽を聴きながら作業をしているグループがある。	

【A5】 A-2-(1)-③ 利用者の意思を尊重する支援としての相談等を適切に行っている。	b
--	---

<コメント>

年1回、利用者一人ひとりに対して、口頭での満足度調査を行っている。満足度調査の意見は大事にするようにしている。事業所に相談室が2ヶ所あるが、食べたいものや行きたいところの相談が多く、ほとんどは日々の活動の中で、担当の職員に話をしている。月1回、オンブズパーソンが2名訪れ、利用者の話を聞いている。利用者からは、人間関係や職員、食事、仕事、設備についての話があるとのことで、事業所に関係のある事柄は、相談担当の職員に報告があり、必要に応じて、職員会議などで話し合いを行い対応している。

【A6】 A-2-(1)-④ 個別支援計画にもとづく日中活動と利用支援等を行っている。	a
--	---

<コメント>

午前、午後の作業活動、昼食、休憩、おやつなど、利用者の体力に配慮した一日のスケジュールを立てている。利用者それぞれの特性に合わせて、活動を行っている。アセスメントに基づき、その方に合った手順書を作成して、個別支援計画に沿って支援している。家庭での入浴が困難な方は、機械浴による入浴サービスを受け、食事もその方に合った食形態で提供している。胃ろうを造設している方は看護師が対応している。また、重度自閉症の方たちも、構造化された環境のもと、見通しを持って活動に取り組んでいる。利用者一人ひとりの特性やニーズに合った個別支援計画を作成している。

【A7】 A-2-(1)-⑤ 利用者の障害の状況に応じた適切な支援を行っている。	b
---	---

<コメント>

暴力やパニック、強度のこだわりなどの行動障害が多くみられる。職員や他の利用者に暴力があった場合は、他の利用者との距離を取り、被害のあった方に対応する職員、その他の利用者の対応にあたる職員、本人に対応する職員に分かれて支援している。本人は別室でクールダウンをして落ち着いてから、何が原因だったのかを話し合っている。場合によっては、事務室の職員も応援で対応することがある。活動室の扉が閉まっていなくて不安定になるなど、強いこだわりのある方には、常にきちんとドアを閉めておくなど、担当職員は一人ひとりのこだわりを把握して対応している。行動障害などが起きたときはカンファレンスを開催し、その時の対応を振り返り、今後の対応に活かすようにしている。職員は強度行動障害基礎研修を受講し研鑽している。

A-2-(2) 日常的な生活支援	第三者評価結果
------------------	---------

【A8】 A-2-(2)-① 個別支援計画にもとづく日常的な生活支援を行っている。	a
--	---

<コメント>

食事は外部業者に委託し、事業所内の厨房で調理している。栄養士が献立を作成し、食事担当の職員が利用者や家族の希望を聴き、給食会議で栄養士に伝えて献立に反映している。常食や1口刻み、刻み、ペースト、ソフト食の食形態を用意し、利用者個々に合った食事を個別支援計画に基づき提供している。特に食事にこだわりがある方には、本人のこだわりに配慮して提供している。丼物は受け付けないので、ごはんと具材を分けて提供するなどしている。入浴サービスを希望する方には、寝台浴、座浴とその方に合った方法で、入浴を提供している。排泄の介助も、その方に合った介助方法で支援している。自力歩行の方が多いが、車椅子を使用している方もいる。すべて、日常生活の支援は、個別支援計画に基づいて提供している。

A-2-(3) 生活環境	第三者評価結果
--------------	---------

【A9】 A-2-(3)-① 利用者の快適性と安心・安全に配慮した生活環境が確保されている。	a
---	---

<コメント>

建物は市が建設し、部屋数が多く、作業室は明るく清潔である。建物内の清掃は、他の就労事業所の利用者が専門に行っている。その他、業者により、床や窓、フィルターの掃除を年2回行っている。毎日の作業室の掃除は、午前の活動終了後、午後の活動終了後に職員と利用者と一緒にしている。休憩時間は、作業室でゲームをしたり、職員と話をしたりしている。何をしたいかわからない方には職員が声掛けをして、興味のあることを見つけて楽しんでいる。廊下には、季節の装飾品を飾り、季節感を感じられるようにしている。また、利用者の習字の作品なども飾っている。

A-2-(4) 機能訓練・生活訓練	第三者評価結果
【A10】 A-2-(4)-① 利用者の心身の状況に応じた機能訓練・生活訓練を行っている。	b
<コメント>	
コロナ禍前は、理学療法士が定期的に訪れ、必要な方に機能訓練を実施していた。神奈川県リハビリテーションセンターから理学療法士の訪問が1度あり、階段昇降や歩行訓練の助言を受け、活動の中で実施している。また、散歩や外出など、利用者が身体を動かす活動を取り入れている。利用者はもちろん家族も、作業活動だけでなく、楽しみや行事があることがとても楽しいと話している。	
A-2-(5) 健康管理・医療的な支援	第三者評価結果
【A11】 A-2-(5)-① 利用者の健康状態の把握と体調変化時の迅速な対応等を適切に行っている。	b
<コメント>	
家での健康状態は、毎日持参している「連絡帳」で把握している。出勤後は午前午後の検温（コロナの状況で1日3回行っていたこともある）や顔色、身体の動きなど、担当職員が利用者に変化がないか確認している。看護師は重度心身障害の方の班にすることが多いが、月1回、利用者全員の体重測定や血圧測定を行っている。また、排便が滞っている方の相談など、健康に関する相談を受けている。年4回、嘱託医の検診を行い、家族に結果を報告している。また年1回、健康診断を行っている。体調変化時は、看護師や家族に連絡して対応している。てんかんがある方が多く、すべての方の家族に発作時の対応を確認している。	
【A12】 A-2-(5)-② 医療的な支援が適切な手順と安全管理体制のもとに提供されている。	b
<コメント>	
痰の吸引が必要な方が2名、胃ろうを造設している方が1名、ストマを装着している方も1名おり、医療的ケアの必要な方は常に看護師が対応している。介護福祉士の医療的ケアは行っていない。また、ほとんどの利用者が服薬している。薬は基本的に1週間分を預かり、看護室の鍵のあるケースに保管している。昼食前に食堂担当職員が看護室に行き、食食用ケースに入れた薬を食堂に運び、服薬時には職員は二人でチェックしている。日にち、名前を確認して、分包袋を開けて飲んでもらっている。空き袋はケースに入れて戻し、看護師が最終確認をして、誤与薬を防止している。利用者の個人ファイルには、服用している薬の説明書をファイルし、職員は内容をすべて把握している。	
A-2-(6) 社会参加、学習支援	第三者評価結果
【A13】 A-2-(6)-① 利用者の希望と意向を尊重した社会参加や学習のための支援を行っている。	b
<コメント>	
地域の行事には特に参加はしていない。コロナ禍前、かっぱ堂やレインボードリーム合同でマルシェ（自主製品販売会）を行い、自主製品の陶芸作品や手芸品、農作物を販売する場を設けていた。マルシェをまたやりたいとの希望があり、合同ではなく事業所単独で行うことを決めている。セルフプロダクトチームを中心に、カフェ「はみんぐ」でマルシェを行っている。陶芸や子どもたちに向けたお菓子、ヨーヨー釣り、野菜の販売などを行い、地域の人たちと交流している。コロナ禍前には、近くの体育館へ行きスポーツを楽しんでいたが、使用できなくなってしまったため、公園への散歩や受注商品の納品に出掛け、利用者が社会とのつながりを持つことができるようにしている。	
A-2-(7) 地域生活への移行と地域生活の支援	第三者評価結果
【A14】 A-2-(7)-① 利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行や地域生活のための支援を行っている。	b
<コメント>	
利用者は、家庭やグループホームから通っている。家庭から通ってくる方たちに、グループホームへの移行を積極的にすすめている。事業所内に短期入所の部屋を4部屋設置し、自宅以外の生活の場を提供している。相談支援事業所と連携を取りながら、本人の意向を確認して、グループホームへの移行をすすめている。家族が若く、本人も若いうちに自立を考える家族は比較的多い。逆に昭和世代の家族は家庭での生活からの変化を望まないケースが多い。家族の高齢化とともに、課題も増えている。親亡き後の生活をどこにするかは、今後の大きな課題として捉えている。	

A-2-(8) 家族等との連携・交流と家族支援	第三者評価結果
【A15】 A-2-(8)-① 利用者の家族等との連携・交流と家族支援を行っている。	a
<コメント>	
毎日、連絡帳で家族と連携をとっている。また、送迎サービスを利用している方は、送迎の際にコミュニケーションを図っている。年2回、個別支援計画のモニタリング時期には面接を行い、事業所での生活について、利用者や家族の意見を聴いている。家族会があり、事業報告や計画、新任職員の紹介などを行い、意見をもらっていた。以前家族からどのような給食を食べているのか見てみたいという意見が出た時は、給食会議で検討し、家族会で食事を提供したことがある。コロナ禍により、集合での家族会は難しいため、代わりに電話での連絡などを頻繁に行うようにしている。月1回、予定表を配布し、事業所での生活の様子を知らせている。	

A-3 発達支援

A-3-(1) 発達支援	第三者評価結果
【A16】 A-3-(1)-① 子どもの障害の状況や発達過程等に応じた発達支援を行っている。	
<コメント>	
障害者の多機能型事業所のため、評価外とする。	

A-4 就労支援

A-4-(1) 就労支援	第三者評価結果
【A17】 A-4-(1)-① 利用者の働く力や可能性を尊重した就労支援を行っている。	b
<コメント>	
働くことを希望する利用者には、段ボールの組み立てやタオルたたみ、ペットボトルのキャップの色分け、DVDの分解などの受注作業や、自主活動としての農園作業や陶芸など、好きな作業を選んで行えるようにしている。また、活動の一部としてカフェ「はみんぐ」を併設し、接客や厨房での作業を行えるようにしている。一日中の作業ではなく、身体を休めたり、身体を動かす運動を行ったり、散歩に行くなど、楽しかったと思えることをスケジュールに組み込んでいる。一人ひとりの希望を入れ、個別支援計画に沿って、できることに取り組めるよう支援している。工賃は月1000～3000円、カフェで作業をしている方は月10,000円くらいとのことである。	
【A18】 A-4-(1)-② 利用者に応じて適切な仕事内容等となるような取組と配慮を行っている。	a
<コメント>	
毎朝と昼のミーティングで、その日行いたい作業を利用者が選んでいる。段ボール作業は、製品を開ける人、組み立てる人、できたものをまとめて縛る人など、一つの作業を分担して、できるところを行ってもらっている。カフェ「はみんぐ」で働いている方は、コーヒーやカレーなどの軽食を、利用者や地域の方たちに提供しているので、活動している方の衛生管理にも十分な配慮を行っている。職員は利用者の得意分野を見極めながら支援している。地域の方たちの利用をもっと増やしていきたいと考えているが、営業時間が午後14時30分までのため、営業時間が現在課題となっている。	
【A19】 A-4-(1)-③ 職場開拓と就職活動の支援、定着支援等の取組や工夫を行っている。	a
<コメント>	
セルフプロダクトチームを組み、受注作業や自主製品の開発に取り組んでいる。一般企業へ足を運び、内職作業があるかを確認し、その作業が利用者の能力に合い、作業が可能かどうかを見極め、できるようであれば契約している。企業に出向き開拓をしているが、利用者ができる仕事を探す難しさを感じている。仕事があっても、利用者ができなければ契約は成立しないため、利用者の特性を把握していないと、職場開拓はできないと痛感している。利用者が描いた絵の商品化に取り組み、Tシャツにプリントアウトして販売を始めたところである。今後はさらに、トレーナーなどの商品を増やしていきたいと考えている。マルシェ（自主製品販売会）などを利用して販売を促進していきたいと考えている。	